

記入例：事例2（医療関係者が複数感染したため一括調査）

様式5-2

新型コロナウイルス感染症の業務起因性の判断のための調査復命書 (感染経路不明事案以外)

										整理番号	
局 署											
署長		副署長		課長		給調官		係長		係	復命年月日 令和〇年〇月〇日
署長判決・指示事項								調査官	厚生労働事務官 〇〇 〇〇		
1. 調査官意見のとおり決定する。 2. 下記事由により再調査を要する。								調査期間	自 令和 〇年 〇月 〇日 至 令和 〇年 〇月 〇日		
								受付年月日	令和 〇年 〇月 〇日		
								請求種別	☒ 療養 ☒ 休業 ☐ 遺族 ☐ 葬祭 ☐ 障害 その他（ ）		
事業場	労働保険番号	〇〇-〇-〇〇-〇〇〇〇〇〇-〇〇〇									
	名称	〇〇市立厚生労働病院 代表者名 院長 〇〇 〇〇									
	所在地	〒〇〇-〇〇〇〇 Tel 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇1-1-1									
	業種	医療業	労働者数	〇〇 名							
被災労働者	ふりがな氏名	いたばし はるみ 板橋 春美 ほか7名						生年月日	昭和・平成 年 月 日 (歳)		
	住所	〒 ー Tel									
	職種	〔常用・日雇〕						職名			
	雇入年月日	昭和・平成・令和 年 月 日									
ふりがな氏名	いたばし はるみ 板橋 春美 ほか7名 (別紙事案一覧のとおり) (続柄)										
病状	発症時期	令和 年 月 日 午前・午後 時 分 (頃) (発症時年齢 歳)									
	現在の状況	生存・死亡 (死亡年月日 令和 年 月 日 (死亡時年齢 歳)									
請求人の申述	令和2年3月下旬以降、入院患者、病院職員が次々と新型コロナウイルスに感染し、病院内でクラスターが発生した。										
事案の概要	令和2年3月下旬頃、入院患者が新型コロナウイルス感染症に罹患したことが確認され、その後患者、職員計40人以上が感染するクラスターが発生したもの。										

1 総合判断

総合判断	〔調査官の意見〕 本件は、〔 ☒ 業務上 ・ 業務外 〕 と考える。 調査の結果下記のとおり、労働基準法施行規則別表第1の2第6号1又は、第6号の5における疾病に ☒ 該当する ・ 該当しない ものと判断する。 各請求人の傷病年月日は、請求事案一覧表のとおりとする。 1 PCR検査結果（検査結果確認先：診療費算定内訳、主治医意見書、宿泊・自宅療養証明書・就業制限通知書） ☒ 陽性 ☐ 陰性 2 感染経路の特定 ☒ 有 （☒ 国内 ☐ 国外、国名： ） （☒ 業務内での感染、☐ 業務外での感染） 特定した機関名：請求人及び所属事業場（申立書及び使用者報告書の記載内容から感染経路判明と判断した） ☐ 無（不明） 3 請求就労状況の該当事由 (1) ☒ 医療従事者等（医師、看護師、理学療法士、放射線技師 の業務） (2) ☒ 医療従事者等以外の労働者であって感染経路が特定されたもの（事務） 4 その他 詳細は請求事案一覧のとおり
------	---

市立厚生労働病院（令和2年〇月〇日請求事案一覧）

氏名	性別	生年月日	職種	通達該当	発症日	初診日	PCR検査（陽性）実施日	傷病年月日	陽性確認方法	発病前14日間での感染源との接触状況（病院では8人とも感染患者と接触したことが確認されている）	発症前14日間での業務外の行動履歴
1 板橋 春美	女	S62.〇.〇	医師	2 (1) ア	R2.4.4	R2.4.4	R2.4.4	R2.4.4	5号レセプト	患者の集団感染が発生した3階南病棟で患者の診察等を行った。	休日に子供と公園に行ったが、空いていた。家族との接触のみで、家族は陰性。
2 豊島 一哉	男	H3.〇.〇	医師	2 (1) ア	R2.4.16	R2.4.17	R2.4.17	R2.4.17	意見書	救急外来で診察した患者がその後陽性と確認された。	休日、仕事終わりに日用品の買い物をするくらい。一人暮らし。
3 大田 夏希	女	H10.〇.〇	看護師	2 (1) ア	R2.4.2	R2.4.3	R2.4.3	R2.4.3	5号レセプト	患者の集団感染が発生した3階南病棟で看護業務に従事していた。	友人5人と食事を1回行ったが、参加者に感染者はいない。同居家族は陰性。
4 江戸川 秋子	女	S47.〇.〇	看護師	2 (1) ア	症状なし	受診なし	R2.4.10	R2.4.10	就業制限通知書・解除通知書	患者の集団感染が判明した2階東病棟で看護業務に従事していた。症状はなかったが、濃厚接触者としてPCR検査を受けた。	同居の夫が感染したが、請求人の陽性判明の6日後である。
5 千代田 二彦	男	S50.〇.〇	事務	2 (1) イ	R2.4.14	R2.4.15	R2.4.15	R2.4.15	5号レセプト	発熱外来の受付等を担当し、後に陽性が判明する患者と複数接触した。	家族以外と接していない。妻が自身の濃厚接触者として検査を受け、陽性。
6 松谷 冬美	女	H6.〇.〇	事務	2 (1) イ	R2.4.18	R2.4.19	R2.4.19	R2.4.19	意見書	同僚の千代田と席が隣であり、業務に關して千代田と相談しながら仕事を進めていたため、濃厚接触している。	外出していない。一人暮らしで人との接触はなし。
7 港 祐三	男	S61.〇.〇	理学療法士	2 (1) ア	R2.4.10	R2.4.11	R2.4.12	R2.4.11	意見書	リハビリを担当した患者がその後、陽性と確認された。	子の小学校の入学式に出席したが、感染者は確認されていない。他は、買い物くらの外出。家族の感染なし。
8 荒川 四郎	男	H4.〇.〇	放射線技師	2 (1) ア	症状なし	受診なし	R2.4.8	R2.4.8	宿泊・自宅療養証明書	陽性疑い患者（後に陽性確認）にCT撮影を複数行い、接触した。症状はなかったが、濃厚接触者としてPCR検査を受けた。	日用品の購入以外に外出していない。一人暮らし。